

教職コンソーシアム通信

学びの架け橋

人にまっすぐ。
大阪教育大学

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 01 学びの架け橋に寄せて | 06 加盟校出身学生・卒業生の紹介 |
| 02 リレーエッセイ | 07 加盟校の取り組み紹介 |
| 03 交流事業の紹介 | 08 大学トピックス／編集後記 |

『学びの架け橋』に寄せて

大阪府教育委員会教育長 向井 正博

大阪の教育の発展の鍵は、生徒・保護者や地域から信頼され、且つ、様々な教育課題に対応できる実践力のある教員を採用するとともに、教職員の資質向上を図ることにあると考えております。

昨年度、「教員になること」を具体的にイメージできる機会を与えることを目的とした「府立高校教職コンソーシアム」が結成され、府立高校32校と大阪教育大学との連携交流がスタートし、本年4月には、大学からの情報提供、加盟校の先進的な取り組みや交流事業の紹介を目的に、教職コンソーシアム通信「学びの架け橋」が創刊されました。今後は、加盟校出身の学生・院生・教員からなる「学生応援団」が母校である高校を訪問し、広報・交流活動を行ったり、「府立高校教職コンソーシアム」を対象としたキャンパスガイド（ミニオープンキャンパス）や大学での体験授業、高校への出前授業など、様々な連携交流事業を進めていかれると伺っています。

大阪府教育委員会では、教員採用選考テストにおいて、教員に求める人物像として、何より子どもが好きで、子どもと共感ができ、子どもに積極的に心を開いていくことができる「豊かな人間性」、幅広い識見や主体的・自律的に教育活動

に当たる姿勢など、専門的知識・技能に裏打ちされた指導力を備えた「実践的な専門性」、保護者や地域の人々と相互連携を深めながら、信頼関係を築き、学校教育を通して家庭や地域に働きかけ、その思いを

受け入れていける「開かれた社会性」の3つを掲げ、これらを兼ね備えた熱意ある教員を求めています。

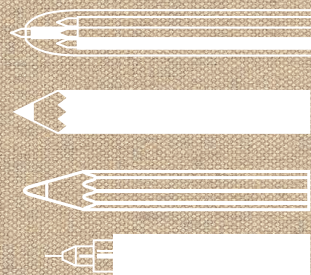
「府立高校教職コンソーシアム」の取り組みにより、高校生の時期から教職への高い志がはぐくまれ、教育への熱い思いをもつ者同士、互いに刺激を受けながら、研鑽を積み、次代の大阪を支える教員になってくれることを心から期待しています。





RELAY ESSAY

リレーエッセイ



船出

大阪府立八尾高等学校 浅田 建

私は神戸の下町で生まれ育ちました。近くには、三菱造船の工場と研究所がありました。研究所の向かいには神社があり、小学生のころは、学校から戻ると、ランドセルを玄関に放り投げ、神社で友達とボール遊びをしていました。かけっこには自信があったので、中学校では陸上競技部に所属していましたが、中学校3年生の担任の先生の影響で絵を描くことにも興味をもっているという、どこにでもいそうなごくごく平凡な少年でした。

高校に入学し、何部に入ろうかと考えていた時、講堂にあった卒業生の東山魁夷の絵に出合い、美術部に入りました。また、身体を動かすことも好きだったので、山岳部にも所属しました。高校2年生の2学期に、3年次からの文理選択にむけてのガイダンスがありましたが、「絵描きになりたい」という漠然とした夢については、結局、両親には話すことができませんでした。

高校ではよく自習がありました。自習の情報が入れれば職員室に行き、その時間、空いている先生に授業をしてもらおう。こうして、土曜日の4コマの授業を金曜日までに消化し、土曜日はクラスでソフトボールをするという今では考えられない高校生活でした。出張以外に病気で休んだ先生もおられたはずですが、休んで喜ばれるのは嫌な職業だなあ、と思ったものです。

将来どういう仕事に就こうか、と思いながら、「蛭雪時代」をパラパラとめくっていました。早稲田大学建築学科の入試科目にデッサンがあったことから、「設計」という仕事にターゲットを絞りました。そして、理系を選択し、大学は工学部に進みました。

大学では船の設計等を学んでいたのですが、卒業後は家の近くの三菱造船に就職できれば、ぐらいの漠然とした進路を考えていました。

ところが、大学3年生のときに「オイルショック」に見舞われ、日本中の経済が大混乱をきたし、卒業時には造船所からの求人は皆無でした。同級生30名のうち、造船所への就職を希望し院に残った者が10名強、教職に就いた者も10名強。後は全く専門と関係のない仕事に就きました。

私はといえば、尼崎市立中学校の数学の教員になっていました。大学に入るまで、自分の職業とし

て、学校の先生は全く考えていなかったのですが、大学当時付き合っていた彼女がたまたま教員志望で、折に触れて教師という仕事の素晴らしさを私に語りました。その時に感じたのは、教員という仕事は、相手によって評価の分かれる仕事である、ということでした。彼女は高校時代の教師団と出会うことによって自分の生き方が変わるという経験をし、人間の生き方に迫ることのできる教員になりたいという思いを強く抱いていました。残念ながら、私は、背中を追いたい教員と出会うことはありませんでしたが、彼女の話聞くにつけ、徐々に人間相手の仕事はやりがいがありそうだ、という思いになり、教員になりました。

こんな私も教育現場から多くのことを学びました。生徒たちが私に教えてくれたのです。様々な事情を抱えながら必死に生活している生徒と保護者の姿。勉強ができるようになりたい、他人に認められたい、という皆が共通して持っている思い。教員はどう寄り添い、どう応えていくか。必死で生徒たちと向き合い、がむしゃらに走り回っていた毎日、気づけば終電が…という日々でした。府立高校の教員、そして、校長になった今も、生徒たちへの思いは同じです。

教育活動の基本は授業です。小さな成功体験ができる授業で生徒との信頼関係が生まれると信じています。「教科指導は生徒指導」これは、私の持論です。そして、私の大切にしている言葉を紹介します。

「教師というものは、持ち前の知識で、その日その日が暮らせる危険な職業です。」(大村はま)

今、大阪教育大学と府立高校教職コンソーシアムとの連携交流が始まりました。激動の時代にあって、教職をめざす高校生にとっての心強い羅針盤です。大学と加盟校の英知によって、この先、いかなる荒波が押し寄せようとも、コンソーシアム号は、『学びの架け橋』として着実に進んでいきます。高校生の皆さん、さあ、船出です。



浅田 建 あさだ けん
大阪府立八尾高等学校校長



交流事業の紹介

EXCHANGE PROGRAMMES

三国丘高等学校で連合教職大学院の教員が出前授業

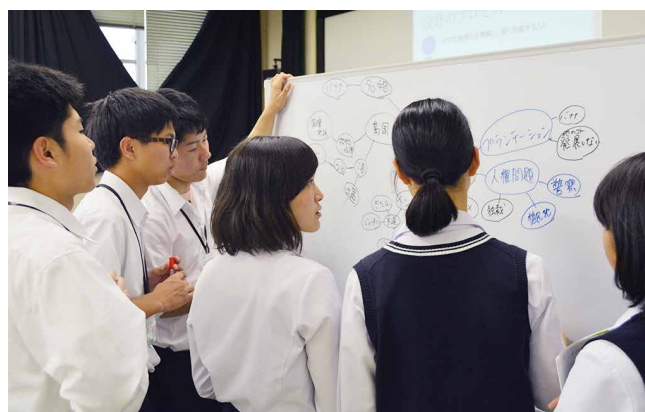
府立高校教職コンソーシアム加盟校である三国丘高等学校2年生約40名に対し、大阪教育大学連合教職大学院に所属する田中満公子(たなか まきこ)准教授が6月2日と9日に出前授業を行いました。

平成26年度に文部科学省より「スーパーグローバルハイスクール(以下SGH)」に指定された同校は、「持続可能な地域開発に貢献できる人材の育成」をめざしています。8月にはSGHの取り組みの一つとしてフィリピンでフィールドワーク研修を実施する予定です。同校の前校長でもある田中准教授は、同校の要請を受け、生徒の国際理解と創造的な企画提言力を向上させるために、米国スタンフォード大学の起業家養成プログラムを参考にした「BE CREATIVE講座」を行いました。これは、6名前後のグループが、集団でアイデアを出し合う「ブレインストーミング」とキーワードやイメージなどを放射状に書き出して考えを視覚化する「マインドマップ」の手法を使い、企画提案を行うというものです。今回は研修先であるフィリピンの現

状を想定したBOP(Base of the Economic Pyramid)ビジネスを企画し、箱や紙などで試作品を作って、最後に2分間のプレゼンテーションを行いました。

プレゼンテーションでは、世界で最も高い電気代や貧富の差に着目し、海流を使って電気を発電し飲料水を作る「発電キット」や、世界第3位の生産量を誇るバナナに付加価値をつける「プレミアムバナナ」、自動車やバイクで発電した家庭用小型バッテリー「フィリピンを救うバッテリー(FSB)」などの試作品が発表されました。

参加した生徒からは、「試作品を作ることで問題点がわかってよかった」「最初は難しかったと思うが、みんなでアイデアを出し合っていく中で形になった。フィリピンに行くことが楽しみ」などの感想が寄せられました。同校の田中和代SGH担当主任は「今後、実際のBOPビジネスの企画提言に入りますが、今回のように自分たちの中にある創造性を最大限に引き出して、楽しみながら企画提言して欲しいものです」と感想を述べました。





交流事業の紹介

EXCHANGE PROGRAMMES

外国人教員による出前授業が大盛り上がり

府立高校教職コンソーシアムと大阪教育大学との連携事業の一環として、大阪教育大学外国語学習支援ルームの外国人教員であるジョン・トムセック特任准教授が、加盟校である夕陽丘高等学校および泉陽高等学校で6月16日、英語表現を高めるための出前授業を実施しました。夕陽丘高校では、2年生を対象に英語を話す楽しさを学ぶ授業として、泉陽高等学校では、夏休みに実施するイギリスへの語学研修参加者の事前準備として行われました。

トムセック特任准教授は、米国のヒップホップグループ「Black Eyed Peas」の音楽を流し、自身も見に行ったという同グループの大阪城ホールライブの再現パフォーマンスを繰り広げて生徒の心をつかみました。そして、同グループのメンバーは国籍もバラバラで、多様な文化をルーツとして音楽を生み出しており、彼らの音楽も「Cross-cultural

Communication(異文化コミュニケーション)」の一つの形であると説明しました。そのうえで、英語はコミュニケーションの一手段であり、その機能を円滑に果たすために、スマイル、ジェスチャー、アイコンタクトといった、万国共通のツールを活用するノウハウを伝授しました。音楽や小道具を交えた多彩なパフォーマンスに、生徒たちは笑顔が絶えず、時折教室中が笑いの渦に包まれました。

両校の生徒からは「楽しくて英語の授業じゃないみたい」「いわゆる講義スタイルとは違い、参加型の授業なので、入り込みやすく、多くのことを吸収できました」「先生が陽気でとても面白く、発言しやすかった」などの感想が寄せられました。





交流事業の紹介

EXCHANGE
PROGRAMMES

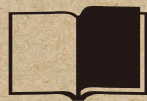
作文コンクール“Leading to the Future” 作品募集

府立高校教職コンソーシアム*加盟校で、将来、教職(学校の先生になること)をめざす生徒の皆さんを対象に、作文コンクールを実施します。優秀作品は「大阪教育大学キャンパスガイド」(11月21日(土)開催)で表彰します。

- 対 象** 府立高校教職コンソーシアム加盟校の生徒で教職を希望する者
- 目 的** ①作文を書くことを通して、生徒が現在と未来の自分に思いを巡らせ、教職への夢や覚悟をより確かなものとする。
②キャンパスガイドでの発表を通して、志を同じくする生徒同士のつながりを生み、夢に向かって一層邁進することを期待する。
- 募 集 テ ー マ** 「未来に向かって ー教師・夢・感動ー」
先生への思い、現在と未来の自分、高校生としての日常生活での感動などを自由に書いてください。
- 応 募 方 法** 400字詰め原稿用紙3枚(1,200字)以内で、各高等学校の担当教員に提出してください。
※作品の裏に学校名・氏名(ふりがな)・学年・性別・学校住所を明記し、ホッチキス止めしてください。
※1人1点。自分で書いたもので、未発表のものに限ります。
※応募作品は返却しません。
- 応 募 締 切** 2015年9月25日(金) ※各高等学校への提出期限
- 表 彰・発 表** 府立高校教職コンソーシアム加盟校対象「大阪教育大学キャンパスガイド」(2015年11月21日(土)、大阪教育大学柏原キャンパスにて開催)において、最優秀賞、優秀賞、佳作を表彰します。最優秀賞及び優秀賞の受賞者は作品を朗読発表し、続いて、大学生とのパネルディスカッション参加します。
※受賞者には、事前に所属学校を通じて連絡します。
- 賞 品** 最 優 秀 賞 1作品(賞状と盾・副賞として図書カード1万円分)
優 秀 賞 2作品(賞状と盾・副賞として図書カード5千円分)
佳 作 数作品(賞状・副賞として大学公式キャラクターグッズ)
※応募者全員に参加賞(ボールペン)を用意しています。
- 主 催** 大阪教育大学、府立高校教職コンソーシアム
- 注 意 事 項** 応募作品に関する一切の権利は、大阪教育大学に帰属するものとし、受賞者については、氏名・学校名・受賞写真・作品をウェブページ及び印刷物等で使用します。応募作品に記載の個人情報は、本コンクールの運営に必要な範囲内で利用し、応募者の同意なく他の目的に利用することはありません。

*府立高校教職コンソーシアム…すぐれた資質を備えた時代を担う魅力ある「教員」を育てることをめざして、2014年12月に大阪府立高校32校により結成。

加盟校出身学生・卒業生の紹介



にしぐち きこ
西口 記子 さん

学校教育教員養成課程教育科学専攻5回生
天王寺高等学校2010年度卒

—大阪教育大学に入学しようと思ったのは？

教員をめざす人のためのサポート体制やつながりが充実していることが魅力でした。それに、部活動やサークル活動が盛んなことも、決め手のひとつです。

—大学生活はいかがですか？

教員という同じ夢を志す仲間と共に、互いに高めあいながら切磋琢磨しています。先生方や、留学生、他専攻の友人など異なる価値観を持つ人々とも積極的に交流し、楽しく充実した学校生活を送っています。

—特に印象に残っていることは何ですか？

3年次にイギリスへ、教育学を学びに1年間留学しました。イギリスでは、ペアやグループで仲間と学び合い、自らの考えや意見を発信する機会が多く、日本でもこういったアクティブ・ラーニングの手法は注目

されているので、自身が教員になったときにも役立つと思います。また、国や文化は違っても、子どもを一番に考えた授業づくりは共通していました。

—どのような教員をめざしていますか？

一人ひとりの個性や自主性を大切にし、人間的な成長を促せる指導者になりたいです。英語指導では、話すことや、体を動かす活動を取り入れ、子どもたちが主体的に学ぶ姿勢を育める教員になりたいです。

—高校時代の思い出は？

勉強、部活動、行事、全て熱心に取り組む仲間とともに、最高の高校生活を過ごすことができました。私たちの考えを尊重し支えてくださった先生のおかげで、夢に向かって努力し続けることの大切さを学びました。

—本学をめざす後輩へメッセージを。

何事にも自由にチャレンジできる環境や支援が、大阪教育大学には揃っています。さまざまな価値観を持つ仲間とともに、勉強も課外活動も、全てに全力で取り組んでほしいと思います。

なかうら はるか
中浦 遥香 さん

教養学科人間科学専攻4回生
北野高等学校2010年度卒

—大阪教育大学に入学したきっかけは？

心理学と図書館司書に興味があったので、心理学系のコースがあり、司書の資格も取得できる本学への入学を決めました。

—大学生活はいかがですか？

時間や金銭面で余裕が持てるため、同じ学科の友人と行ったことのない場所に行き、食べたことのない料理を食べて、見聞を広げたり、感動を共有したりと充実した大学生活です。それに、大学は全国各地から学生が集まるため、物の感じ方、考え方から方言まで、自分とは違う人がたくさんいて面白いです。特に、教員志望の学生は、学生のうちからさまざまな実践経験を積んでおり、わたしも刺激になりました。

—特に思い出深いことはなんですか？

学業の合間に、梅田にある飲食店で働いていますが、お客様に顔を覚えてもらえたときが一番うれしいです。ただの従業員ではなく、わたし個人として認識してもらえたと思い、責任感も強くなりました。今は企業就職をめざして活動中ですが、同僚にも、お客様にも信頼してもらえる人間になりたいです。

—高校時代の思い出は？

所属していた水泳部で、毎年海の日に行く練習メニューに、50m×100本(もしくは100m×50本)があり、泳ぎ切った達成感を部員全員で共有できたことが心に残っています。水泳は個人競技ですが、厳しい練習をともに乗り越えた仲間が、大会で良い成績を残したり、自己ベストを更新したりすると我がことのように嬉しかったです。また、数学が苦手で、よく追試を受けていたことも、今ではいい思い出です。

—本学をめざす後輩へメッセージを。

文武両道を掲げているところは、北野高校とよく似ています。駅からキャンパスまでの道のりは大変ですが(笑)、いろんな挑戦の機会を与えてくれる大学なので、受験勉強頑張ってください！





加盟校の取り組み紹介

MEMBER HIGH SCHOOLS' PROGRAMMES

大阪府立柏原東高等学校

「熱く、厳しく、暖かく」をモットーに、生徒の多様な夢を育てる学校づくりに教職員全員で取り組む。平成23年度より、柏原地域連携型中高一貫教育事業を導入。本年度より大阪教育大学連合教職大学院の「学校実習校」に指定、院生が現場を観察・体験した。

<B-upタイム>

平成25年度より、毎週月・木曜日の5・6限の間に「自分磨きの時間：ブラッシュアップタイム(B-upタイム)」を15分間別枠の時間帯として設置しています。全教職員が一斉に担当の教室に入り(各教室複数名の教員が巡回)、真剣な時間を過ごします。

1・2年生では、3教科(国・数・英)を外部教材を用いて自習形式で学習します。学習内容の定着のため、定期考査の範囲に組み込み、さらに1年生の数学では、内容をリンクさせ授業の復習として取り組めるよう、基礎数学の授業を実施しています。3年生では、就職試験対策として一般教養を小テスト形式で実施し、生徒が就職試験用の問題集を自分の進度に合わせ範囲を決めながら自習します。



毎年生徒全員が4月に「基礎力診断テスト」を受験し、個々の学力を全国的客観的なデータとしてとらえ、進路指導に役立てています。今年、3年間のデータ比較を行った結果、学校全体の基礎学力がアップするとともに、上位層の生徒数が増え、下位層の生徒数が減るという期待を上回る効果が現れています。

また、毎年全国からさまざまな学校が本取り組みの視察に来られるようになり、学校挙げての学習活動にさらに磨きをかけています。

ー最後にー

全教職員が本校の教育活動を「見える化」するためのマップが昨年度完成しました。年間の教育活動を分かりやすく、積み重ねが見えるように工夫しています。また、指導項目ごとに細分化し、キャリア教育のスケジュールを進路別に図式化する等、「継承できるシステムづくり」を完成させました。これからも変化し続ける「柏原東」に合わせ更新を続けていきます。

<特別進学コース>

「B-upタイム」と同じく平成25年度より実施。「本気で進学をめざす」生徒が集まる「勉強部」の形式を取っています。今年3学年が揃い、「部員」も総勢20名を超えました。

毎週放課後4日間(1年生:7時間目、2・3年生:文系・理系7・8時間目)、隔週土曜日に90分×2講座、長期休暇中は80分×5講座を実施しています。3年間で4年分以上の学習時間を確保し、「めざせ！大阪教育大学」「難関私立大学合格！」を合言葉に日々学習に励んでいます。平成25年度には大阪教育大学で本コース生徒対象の「特別講演」「特別講義」「学内ツアー」が実施されました。



毎回の講習に、大阪教育大学から「学校サポート活動」のボランティア学生のみなさんが学習補助に来てくれています。昨年度は、合計8名の学生さんが熱心にサポートしてくれました。来春には、大阪教育大学をはじめ難関大学に合格できるよう、日々生徒・先生方が奮闘しています。

ボランティア学生のみなさんも、講習に積極的に参加し、将来教壇に立つことをイメージして「板書」や「教材研究」他について講習後に自主ミーティングをする等、熱心に取り組まれています。



「国際交流週間」を 柏原キャンパスで実施

大阪教育大学の留学生と日本人学生、教職員、地域住民との交流を図り、異文化・国際理解に寄与することを目的に、「国際交流週間」を6月1日から5日にかけて実施しました。

6月1日、2日、4日、5日は、留学生がレシピ提案をした各国の料理が、第2食堂のバイキングメニューとして日替わりで販売されました。

6月3日にはサンクンガーデンで、留学生によるパフォーマンスと各国の料理のテント販売が行われました。留学生たちは鮮やかな民族衣装を身にまとい、ハンガリーの踊りや、7か国の留学生チームによる各国の音楽を取り入れたオリジナルのダンスなどを披露しました。横のテントでは、タイのスープやカンボジアの炒め料理、オーストラリアの家庭的なケーキが販売されました。来場客はパフォーマンスに喝采を送り、各国の料理に舌鼓を打っていました。

一連のイベントの運営では生協学生委員会が積極的に活動し、留学生と協力しながら盛り上げました。



オープンキャンパスのご案内

今年もオープンキャンパスを2日間にわたって開催します。各専攻の紹介はもちろん、模擬授業、各種相談コーナー、在学生とのフリートーク、キャンパスツアー、ミニコンサートなど盛りだくさん。ぜひ実際に足を運んで、大阪教育大学の魅力を感じてください。

日時 2015年7月25日(土)・26日(日)

場所 大阪教育大学柏原キャンパス
共通講義棟(A棟) ほか

近鉄大阪線「大阪教育大前」駅下車 徒歩約15分

※駐車場に限りがありますので、できるだけ公共交通機関でお越しください。

主な内容

- ・専攻紹介
各専攻等に分かれて、教育・研究内容の説明、質疑応答、施設見学などを行います。
※専攻によって開催日が異なりますので、ウェブサイトでご確認ください。
- ・模擬授業
興味のあるタイトルを選んで、大学生になったつもりで受講してください。
- ・キャンパスツアー
在学生が個性豊かに学内施設を案内します。
希望により研究室探索も可能です。

詳細は大阪教育大学ウェブサイトをご確認ください。

Q 大阪教育大学 オープンキャンパス

編集後記

年4回の発行を目標にしている教職コンソーシアム通信『学びの架け橋』第2号を、梅雨が明けそうで明けない7月初旬に、読者の皆様にお届けすることができ、うれしく思っています。

特にリレーエッセイでは、教職コンソーシアムの幹事校である八尾高等学校の浅田校長先生に執筆していただき、大学時代の彼女の影響で教員になったという意外なエピソードや、教育への信念などを綴っていただきました。

文末の「本学と教職コンソーシアムとの連携交流は、教職をめざす高校生にとっての心強い羅針盤」の文字を目にした時は、連携交流に対する加盟校の先生方の期待を痛感し、改めて身の引き締まる思いがしました。今後は、高校生を教職というゴールに導く羅針盤を意識して、事業に取り組んでいきたいと思います。(O)